

すくわくプログラム推進事業実践報告書 2026年2月

所在地	東京都新宿区戸山1-21-1
施設名	しんじゅくいるまこども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・科学を体験しに行こう
- ・お別れ遠足を通して小学校への期待と自信を持つ

<テーマの設定理由>

- ・年長児のお別れ遠足にて、今年度の保育のテーマである「STEM」の科学を体験するために多摩六都科学館で体験や見学をする。
- ・公共機関や施設を利用することで、社会的マナーやルールを学ぶ良い機会となる。
- ・チーム活動や集団行動を通じて、協調性や自主性を育てる。

2. 活動スケジュール

- ・参加者：5歳児クラス23名
- ・狭山のいるまこども園との合同チーム
- ・活動時間 2時間（目安）
- ・チームごとに事前に決めていた展示室を見学、体験する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・引率職員で多摩六都科学館の下見、団体予約
- ・多摩六都科学館へのバスの手配
(行き：花小金井駅～多摩六都科学館、帰り：多摩六都科学館～しんじゅくいるまこども園)
- ・電車の切符（東京メトロ東西線 早稲田～高田馬場、西武新宿線 高田馬場～花小金井）
- ・チームに1台記録用のデジカメ、腕時計、筆記用具、しおり
- ・狭山と合同のチームを作る。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① チーム単位で事前に回り方を考えた展示室に行き、見学や体験をする。
- ② 5つの展示室では実際に「みて」「触れて」「体験」する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

(子どもたちの様子)

行きは電車に乗るため券売機で切符を買って、周りのお客さんに迷惑がかからないように考えながら電車に乗る。「あと何駅でつくかな?」「次が降りる駅だよね!」と、わくわくしている様子であった。多摩六都科学館では、狭山のお友だちと色々なブースを周る。事前に科学館のブースの掲示やお話しをしていたこともあり、目当ての展示室を見学したり、体験したりして色々な発見を楽しんでいた。

(保育者の関わり)

- ・安全面に配慮し、人数確認や公共のマナーを都度伝えた。
- ・多摩六都科学館では、他のお客さんに迷惑がかからないように注意しながら、チームの子どもたちの体験活動を見守る

活動のが分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・チームで事前に決めた展示室での体験や見学を通して興味関心や探求心が育っていた。また、実際にそれぞれの展示室で体験をすることで「なんでこうなるの?」と自然な疑問や気づきが生まれていた。
- ・社会性や公共のマナーに関する経験は、今後の園外活動や小学校生活にもつながるため、継続的に機会を設けていく。